

令和5年度
学校自己評価報告書

令和6年2月15日

学校法人ファースト学園
専門学校ファースト学園金沢校

学校評価委員会

委員長 加藤 泰博 (校長)

副委員長 山上 むつき (副校長兼情報システム科・情報ビジネス科 学科長)

委員 片口 瑞穂 (グローバルコミュニケーション科 学科長)
南 忠志 (事務局長)
荒田 真一 (情報システム科・情報ビジネス科 主任)
羽場 和馬 (広報 主任)

目次

- I. 学校の現況
 - (1) 学校名
 - (2) 所在地
 - (3) 沿革
 - (4) 学科構成
 - (5) 学生数及び教職員数
 - (6) 施設の概要
- II. 評価の基本方針
- III. 教育目標
- IV. 本年度の重点目標
- V. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) 教育理念・目標
 - (2) 学校運営
 - (3) 教育活動
 - (4) 学修成果
 - (5) 学生支援
 - (6) 教育環境
 - (7) 学生の受入れ募集
 - (8) 財務
 - (9) 法令等の遵守
 - (10) 社会貢献・地域貢献
 - (11) 国際交流
- VI. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

I. 学校の現況

(1) 学校名

専門学校ファースト学園金沢校

(2) 所在地

〒920-0022 石川県金沢市北安江1丁目6番27号

TEL : 076-222-5088

(3) 沿革

- 1980年6月 北陸コンピューター学院設立
- 1984年12月 学校法人北陸コンピューター専門学校設立
- 1992年7月 ファーストコンピューター専門学校設立・北陸コンピューター専門学校を継承する
- 1994年3月 学校法人ファースト学園設立
- 1995年1月 文部省告示により専門士称号付与校となる
- 2004年6月 金沢市堀川新町に新校舎竣工
- 2016年4月 金沢市北安江に移転、校名を専門学校ファースト学園金沢校に変更

(4) 学科構成

課程：工業専門課程

学科	就業年限	入学定員	総定員
情報システム科	2年	30名	50名

課程：商業実務専門課程

学科	就業年限	入学定員	総定員
情報ビジネス科	2年	20名	40名

課程：文化教養課程

学科	就業年限	収容定員
グローバルコミュニケーション科	進学2年コース	40名
	進学1.5年コース	40名

(5) 学生数及び教職員数

学生数 108名 (令和6年2月15日現在)

教職員数 24名

(6) 施設の概要

階	教室数	特別室
1階		学生ホール、休憩所、職員室
2階	4教室	
3階	4教室	保健室
4階	4教室	

II. 評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。

自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者など、学校と密接に関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、業界関係者、卒業生、保護者等学校関係者から規定に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し「学校関係者評価」を実施する。

当該委員会の委員の助言、意見などの評価結果を学校運営等の改善に活用する。評価結果と改善への取り組みを本校ホームページに掲載し広く社会へ公表する。

III. 教育目標

本学は、工業分野において、情報処理技術に必要な実務教育を行うことにより、技術者としての技術を培い、社会に貢献できる人材を育成する。文化教養分野において、日本語教育等を通じて、日本文化への深い造詣を養い、地域社会・国際社会に貢献できる人材を育成する。商業実務分野において、時代のニーズにあったグローバルに活躍できる人材を育成することを目的とする。

IV. 本年度の重点目標

◆年度テーマ

グローバル人材育成と思考力養成を実現し、産学連携により教育活動を充実させる。

また学生が安心して学び、生活できる教育環境を整備し前年度の自己評価を踏まえガバナンスを強化する。

◆重点目標

1. 教育内容の質向上

1) 情報システム科

- ・職業実践専門課程申請準備（R 6年度）
- ・社会で役立つ実践的授業の実施
- ・実務経験者による授業の実施

2) 情報ビジネス科

- ・社会で役立つ実践的授業の実施
- ・実務経験者による授業の実施

3) グローバルコミュニケーション科

- ・検定合格率のUP
- ・ICTを活用した教育成果の向上

2. 学習環境の整備

1) 情報システム科

- ・実習に必要な校具・教具の充実

2) 情報ビジネス科

- ・パソコン実習室の整備
- ・実習に必要な教具の充実

3) 学生満足度の向上

3. 教職員の質向上

- ・学生対応力の向上
- ・学習指導力の向上
- ・専門分野のスキルアップ

4. 広報の強化

1) 情報システム科・情報ビジネス科

- ・定員の充足
- ・学校認知度向上
- ・学校の差別化

2) グローバルコミュニケーション科

- ・定員充足及びN 4 レベル以上の学生確保
- ・更なる多国籍化（+ 1 カ国以上）

5. キャリア支援の強化

1) 情報システム科・情報ビジネス科

- ・就職率100%
- ・本校キャリア支援の魅力向上と周知
- ・キャリア支援の満足度100%
- ・産学連携の強化

2) グローバルコミュニケーション科

- ・志望先への進学・就職率100%

6. ガバナンスの強化

- ・PDCAサイクルによる実績管理
- ・リスクマネジメントと業務効率向上
- ・日本語教育機関として「適正校（クラスI）」の承認を受ける

V. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
②学校における職業教育の特色は定められているか	4	3	2	1
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4	3	2	1
⑤各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①学校の理念は、明確に定められており、目的は学則第1条に明記している。
- ②実務教育を行うことにより、地域社会・国際社会に貢献できる人材を育成する。
- ③日本における教育環境及び社会情勢の分析、あるいは18歳人口の推移、入学生の多様化といった各種の条件を踏まえて、中長期的に目標を作成している。人材育成に関して、社会情勢を踏まえ、社会に貢献できる人材を育成する。
- ④学校案内やホームページ等を通し、広く一般に情報を公開している。また学内においては、掲示板や各教室での掲示などにより、全教職員及び全学生に周知する。
- ⑤業界関係者からの意見を参考に、求められる人材を把握し、教育に反映させている。

2. 課題

- A) ③の項目について
社会のニーズをどのように集め、どのように集約し、どう判断するかが明確になっていない。
- B) ④の項目について
ホームページをリニューアルし改善に努めているが、十分とは言えない。また特に留学生、卒業生への周知が不十分である。
- C) ⑤の項目について
業界のニーズをどのように集め、どのように集約し、どう判断するかが明確になっていない。

3. 今後の改善方策

- A) 企業、有識者からニーズの聞き取りを行う機会を設け、集約、判断する仕組みを作り具体的な将来構想を策定する。
- B) 引き続きホームページの改善や関係業界への周知に努める。
- C) 企業、有識者からニーズの聞き取りを行う機会を設け、集約、判断する仕組みを作り学科の方向づけに活かす。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
④教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
⑤業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
⑥教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
⑦情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①理事長・学校長の方針に基づき運営方針を策定している。日常業務は各学科長が具体化している。また各種委員会が定期的開催され、事業計画に沿った各業務や教育活動を報告し、内容の見直しや効率化の検討を行っている。
- ②理事会・評議委員会において承認を受け策定している。執行状況は各部署が管理を行い、年度末に総括すると共に改善点を検討し、次年度に反映させている。
- ③運営組織については、「組織図」「業務分担表」において明確にしている。各部署は、事業計画にそってそれぞれの業務を遂行し、有効に機能できるよう連携を図っている。
- ④案件に応じて、校長の承認を得て、確定事項となる。特に重要な案件については、理事会において審議され、確定する。
- ⑤体制・規定の整備に着手し、進行中である。
- ⑥本校の実施している教育活動の情報は、ホームページで公開している。
- ⑦学生管理（学籍、成績、出欠、入学願書、就職、学費等）は、各データをコンピューターでの管理を行い、作業の効率化を図っている。また全教職員に対して、パソコンを配布し、イントラネット構築による業務のIT化を積極的に推進している。

2. 課題

- A) ②の項目について
明確な事業計画書がない。
- B) ③の項目について
明確化されているが、見直しが必要である。
- C) ⑤の項目について
ハラスメントなど一部整備されていない。
- D) ⑥の項目について
教育活動の成果が公開されていない。現在のホームページの内容では十分とは言えない。

3. 今後の改善方策

- A) 事業計画を策定し、適切な運営を行っていく。
- B) 必要に応じて改定していく。
- C) 整備していく。
- D) 授業、活動実績など、必要な教育活動を公開する。

(3) 教育活動 (情報システム科)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
⑩資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
⑪人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①教育理念に沿う内容にて教育課程の見直しを行っている。
- ②業界が求める人材の把握を行い、より対応できる人材育成を実施している。
- ③カリキュラムは定期的に社会のニーズに合わせて見直し、目的と目標を明確化している。
- ④インターンシップ及び企業研修や企業人を招いての授業の実施などにより専門職への意識を高めている。
- ⑤提携企業と連携し、より実践力を身につけるために助言を求めカリキュラムを実施している。
- ⑥年2回のインターンシップへの参加を促し、連携企業での実習などを取り入れている。
- ⑦授業アンケートや生活アンケートを実施し、わかりやすく情報を共有している。
- ⑧学校関係者評価委員会を開催し、各分野の関係者からの意見を取り入れる機会を得ている。
- ⑨学則、その他細則に従い、シラバスに明記した内容にて評価・認定をしている。
- ⑩確実に履修できるように、関係教員の指導体制を強化し指導している。
- ⑪学期毎に常勤教員・非常勤講師を問わず、学校・学科の人材育成目標を共有し、より良質の教育を目指している。
- ⑫常勤教員・非常勤講師を問わず、実務経験を持ち、指導力・向上心ともに高い人材を採用している。
- ⑬研修などに参加し、教員の資質向上や先端的な知識・技術の向上を心掛けている。

2. 課題

- A) ②の項目について
業界が求める人材の把握が不十分であり、人材育成が十分実施できているとは言えない。
- B) ③の項目について
目的と目標を明確にしたが、カリキュラム編成を見直し順次改善している。
- C) ⑦の項目について
アンケートを実施しているが、その情報を共有し適切に活用されているとは言えない。

3. 今後の改善方策

- A) ②の項目について
より積極的に業界が求める人材を把握できる機会を設ける。

B) ③の項目について

今年度中に大幅にカリキュラムを見直し来年度より実施する。

C) ⑦の項目について

情報を適切に共有しカリキュラムや教員の質向上に役立てる仕組みを作る。

4. 特記事項

⑥令和6年能登半島地震の影響により予定していた特別授業を実施できなかった。

(3) 教育活動 (情報ビジネス科)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
⑩資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
⑪人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①教育理念に沿う内容にて教育課程を編成し、教育を実施している。
- ②業界が求める人材の把握を行い、より対応できる人材育成を実施している。
- ③カリキュラムは社会のニーズに合わせて策定し、目的と目標を明確化している。
- ④企業実習や企業人を招いての授業の実施などにより専門職への意識を高めている。
- ⑤提携企業と連携し、より実践力を身につけるために助言を求めカリキュラムを実施している。
- ⑥連携企業での実習などを取り入れている。
- ⑦授業アンケートや生活アンケートを実施し、システム化することによりわかりやすく情報を共有している。
- ⑧企業実習などで関係者からの意見を取り入れる機会を得ている。
- ⑨学則、その他細則に従い、シラバスに明記した内容にて評価・認定をしている。
- ⑩確実に履修できるように、関係教員の指導体制を強化し指導している。
- ⑪学期毎に常勤教員・非常勤講師を問わず、学校・学科の人材育成目標を共有し、より良質の教育を目指している。
- ⑫常勤教員・非常勤講師を問わず、実務経験を持ち、指導力・向上心ともに高い人材を採用している。
- ⑬研修などに参加し、教員の資質向上を心掛けている。

2. 課題

- A) ⑦の項目について
情報の共有が不十分であり、適切に活かされていない。

3. 今後の改善方策

- A) アンケート結果を適切に情報共有し活用できる仕組みを構築し、授業に活かす。

(3) 教育活動 (グローバルコミュニケーション科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
④授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
⑤成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
⑥資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
⑦人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
⑧関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①教育理念に沿う内容にて教育課程を編成し、教育を実施している。
- ②学科のディプロマポリシーを策定し、学習成果目標を明確化している。
- ③学科のカリキュラムポリシーを策定し、各科目の目的と目標を明確化している。
- ④各期末に授業評価アンケートを実施、集計している。
- ⑤学則、その他細則に従い、シラバスに明記した内容にて評価・認定をしている。
- ⑥ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの中で「日本語能力検定N3以上の取得」を位置づけている。
- ⑦ガイドラインに従い、要件を満たした人材を確保している。
- ⑧日本語教育機関に関する新たな認定制度やICT教育に関する研修やウェビナーに積極的に参加している。

2. 課題

A) ④の項目について

授業についての教員自己評価が行われていない。また学生の授業評価を受けての教員の振り返りがない

B) ⑧の項目について

学科長が研修等に参加しているが、学科内へは口頭報告のみにとどまっている。

3. 今後の改善方策

- A) 教員も自己評価を行うこと。また学生からの授業評価を受けての振り返りも行う。
- B) 受けた研修内容について学科内で協議、共有し、展開していく。

(4) 学修成果 (情報システム科)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
②資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
③退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
④卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①就職支援の専任職員を配置している。会社訪問や校内就職ガイダンス、校内会社説明会などを積極的に行っている。また就職フェアやインターンシップへの参加を促している。直接実施できない場合などは、オンラインなどで行う環境を整えている。
- ②各種検定を校内受験出来るようにし、受験しやすい環境を整えている。また習得が不十分な学生には個別に対策授業を行っている。
- ③成績の悪い学生については補講により対応している。出席率の低い学生については本人や保護者と面談し個人に合わせて対応している。
- ④在校生に関しては、ある程度把握している。卒業生に関しては、あまりしていない。
- ⑤卒業後、一年位はある程度把握しているが、その後は特に確認をしていない。

2. 課題

A) ③の項目について

出席率の低い学生について、対応はしているが退学者が出ている。更に退学を予防する対策が必要である。

B) ④の項目について

卒業生に対して社会的な活躍及び評価をあまり把握していない。

C) ⑤の項目について

卒業後のキャリア形成への効果をあまり把握していない。

3. 今後の改善方策

- A) 出席率向上に向け、本人や保護者との面談を増やし、問題点を共有し改善していく。
- B) 卒業生に対して、定期的に連絡をし状況を把握するように努める。
- C) 卒業生の状況を把握し、学生に必要とされる教育を行えるようカリキュラムの改善をする。

(4) 学修成果 (情報ビジネス科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
②資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
③退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
④卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①就職支援の専任職員を配置している。企業実習や企業訪問を積極的に行っている。また就職フェアやインターンシップへの参加を促している。直接実施できない場合などは、オンラインなどで行う環境を整えている。
- ②各種検定を校内受験出来るようにし、受験しやすい環境を整えている。また習得が不十分な学生には個別に対策授業を行っている。
- ③成績の悪い学生については補講により対応している。出席率の低い学生については本人や保護者と面談し個人に合わせて対応している。
- ④在校生に関しては、ある程度学科では把握している。新しい課程となってからは、まだ卒業生はいない。
- ⑤卒業後、定期的に状況を把握する。

2. 課題

- A) ⑤の項目について
定期的に状況を把握する手段を決めていない。

3. 今後の改善方策

- A) 把握する仕組みを構築し、適切に行えるようにする。

(4) 学修成果 (グローバルコミュニケーション科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①進学率の向上が図られているか	4	3	2	1
②資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
③退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
④卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①全体及び個別の進学指導を行い、概ね希望に合った分野への進学ができています。
- ②授業の中では常に検定を意識した指導を行い、検定前の時期は集中対策授業を行っている。
- ③厳しい出席管理、生活管理を行い、失踪、退学につながるような予兆を見逃さないよう学生の様子に日々気を配っている。
- ④在校生は把握。卒業生は追跡調査中。

2. 課題

- A) ①の項目について
最終的には進学が決定したが、第一志望の学校に合格できなかった学生も数名いた。
- B) ④の項目について
在留更新ができたところまでは確認済み。専門学校卒業の可否と就職先については未確認。

3. 今後の改善方策

- A) 面接練習を複数回徹底して行う。
- B) 在留更新等、必要な情報については必ず確認し把握する。

(5) 学生支援（情報システム科）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①進学・就職に関する支援体制は整理されているか	4	3	2	1
②学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
⑦保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
⑧卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①専任職員を配置し、進学・就職に関する支援を実施している。
- ②クラス担任、就職に関する専任職員、精神保健福祉士など学生の相談内容に応じて対応できる体制を整えている。また定期的に面談を行い、早期に問題を発見・解決出来るようにしている。
- ③各種奨学金の紹介、学校内奨励金制度、学費分納制度などで支援を行っている。加えて給付金や補助金制度を利用し、学生の経済的支援を行っている。
- ④定期的な健康診断を実施し、校内に保健室を設置している。またメンタルヘルスの授業を行っている。
- ⑤支援する体制を整えている。
- ⑥一人暮らしの学生には家庭訪問や定期的なアパート点検を実施し、また保護者面談などを行い学生の生活環境の把握に努めており、場合に応じて適切な支援を行っている。
- ⑦各学科に合わせて定期的に保護者面談を行っている。また必要に応じて臨時にも行っている。保護者からの電話などでの相談にも随時対応している。
- ⑧卒業生から依頼がある場合には、進路や就職などの相談に応じている。
- ⑨委託訓練を含む社会人向けの付帯授業を実施している。

2. 課題

- A) ②の項目について
学内で改善される課題が発見された。
- B) ⑧の項目について
卒業生からの依頼がある場合には相談にのっているが、積極的に支援している状態ではなく、体制も十分とはいえない。

3. 今後の改善方策

- A) 早期に問題を発見し対応できる仕組みを作り、適切に対応できるようにする。
- B) 就職先に対しアンケートを実施した。また企業には入社学生の積極性などのスキルの要望を聞き取り、就職後のキャリアに活かす。

(5) 学生支援 (情報ビジネス科)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①進学・就職に関する支援体制は整理されているか	4	3	2	1
②学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
⑦保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
⑧卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①専任職員を配置し、進学・就職に関する支援を実施している。
- ②クラス担任、就職に関する専任職員、精神保健福祉士など学生の相談内容に応じて対応できる体制を整えている。また定期的に面談を行い、早期に問題を発見・解決出来るようにしている。
- ③各種奨学金の紹介、学校内奨励金制度、学費分納制度などで支援を行っている。加えて給付金や補助金制度を利用し、学生の経済的支援を行っている。
- ④定期的な健康診断を実施し、校内に保健室を設置している。またメンタルヘルスの授業を行っている。
- ⑤支援する体制を整えている。
- ⑥一人暮らしの学生には家庭訪問や定期的なアパート点検を実施し、また保護者面談などを行い学生の生活環境の把握に努めており、場合に応じて適切な支援を行っている。
- ⑦各学科に合わせて定期的に保護者面談を行っている。また必要に応じて臨時にも行っている。保護者からの電話などでの相談にも随時対応している。
- ⑧今年度は卒業生がいない。
- ⑨委託訓練を含む社会人向けの付帯授業を実施している。

2. 課題

- ・特になし

3. 今後の改善方策

- ・特になし

(5) 学生支援（グローバルコミュニケーション科）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①進学に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
②学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
⑦送り出し機関や紹介者と適切に連携しているか	4	3	2	1
⑧卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
⑨在日外国人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①進学指導の時間を設け、進学先選択、受験指導、入学手続き、転居に係る支援を行っている。
- ②学習、住居、アルバイト等、学生からの様々な相談に、都度対応し、迅速に対処している。
- ③各種奨学金の紹介、学校内奨励金制度、学費分納制度などで支援を行っている。加えて給付金や補助金制度を利用し、学生の経済的支援を行っている。
- ④定期的な健康診断を実施している。また体調不良者が出た場合には受診に付き添い、サポートしている。国保及び医療保険にも全員加入している。
- ⑤金沢の特性を活かした活動や日本への理解を深めるための学科特有の活動を行っている。
- ⑥留学生宿舎を借り上げ、入居サポート、衛生定期点検を行っている。
- ⑦問題が発生した場合は現地と連絡をとり、双方からの助言、指導を行っている。
- ⑧卒業後も在留期間更新手続きについての助言、支援を行っている。
- ⑨聴講生制度を設け、周知している。また今年度は当校が「ウクライナ避難民向け日本語学校奨学金」の対象機関に認定され、2名の避難民を受入れている。

2. 課題

- A) ⑨の項目について
聴講生制度の周知が十分でなく、広く認知されていない。

3. 今後の改善方策

- A) チラシ等を用いて金沢国際交流財団や各市町村の国際交流協会への周知を図る。またホームページでのSEO対策、及びSNSなどを使って周知に努める。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
②施設・設備は、学生生活の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
③カリキュラムに必要な実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
④防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①必要に応じて施設・設備は整備されている。
- ②学生からのニーズに迅速に対応し都度整備を行っている。
- ③学科のカリキュラムに合った関係各所と連携を取り、必要な体制を整備している。
- ④防災に関するマニュアルを作成しており、定期的に消火設備についての点検及び防災訓練を実施している。不備な箇所については随時修繕を行っている。

2. 課題

- A) ①の項目について
ある程度必要な設備は整っているが、社会のニーズに合わせて、新たな設備を整備する必要がある。
- B) ②の項目について
今年度は駐輪場の整備などを行い、学生からのニーズに対応しているが、まだ充分とはいえない。
- C) ③の項目について
カリキュラムに必要な実習設備が、まだ不十分である。
- D) ④の項目について
防災に関するマニュアルが不十分であり、更に改善する必要がある。留学生の増加に伴い、防災に対する教育方法が必要である。

3. 今後の改善方策

- A) 必要度合に応じて、計画的に新たな設備を整備していく。
- B) 空き教室に昼食時の休憩室を確保したが、今後は更に整備していく予定。
- C) カリキュラムに必要な設備を順次整える。令和6年度はビジネス実習室を補助金を利用し整備する。
- D) 不十分なマニュアルの改定や体制を見直し、早期に改善に努める。また留学生に対して、わかりやすい教育方法の改善（言語など）と実施回数の増加などの対応を検討する。

(7) 学生の受入れ募集 (情報システム科・情報ビジネス科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2	1
②学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
③学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	4	3	2	1
④学生納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①広報担当者が高等学校・日本語教育機関を訪問し直接情報提供を行っている。さらにガイダンス業者を通じたイベントや、本校独自の体験授業や学校見学会、講演会を行っている。
- ②高等学校・日本語教育機関等の訪問や、Web・TVなど各種媒体を利用した活動を行っている。また、ガイダンスやオープンキャンパスを積極的に行っている。
- ③教育成果の情報を学校案内やホームページに記載している。学生の許可を得てSNSでの周知や、母校・先生への報告も行っている。
- ④情報ビジネス科の課程変更に伴い授業料の見直しを行った。また、次年度以降は適宜学生納付金の見直しを行っていく。

2. 課題

- A) ④の項目について
一部見直しが必要

3. 今後の改善方策

- A) 社会情勢と他校の納付金の状況を確認し、適宜見直しを行う。

(7) 学生の受入れ募集 (グローバルコミュニケーション科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①留学生送り出し機関等に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2	1
②学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
③学生募集活動において、教育成果（資格取得・進学状況等）は正確に伝えられているか	4	3	2	1
④学生納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①パンフレット、ホームページ上で学科を紹介し、募集要項を多言語で作成している。
- ②現地の日本語学校や送り出し機関と連絡をとり、原則的には時宜を図って現地にて学校説明と選考試験を実施することとしている。
- ③現地エージェント及び紹介者へ、検定試験結果や進学状況について全て報告している。
- ④教育内容に応じて適切な金額と思われる。また他校と比べても著しい違いはない。

2. 課題

- A) ①の項目について
ホームページや募集要項は日本語と英語のみで中国語が無い。

3. 今後の改善方策

- A) 中国での募集活動を積極的に行うため、まずは要項の中国語版を作成したい。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
③財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
④財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①土地・建物は法人所有であり、学生数も増加している。
- ②ほぼ予算・収支計画通りになっている。
- ③外部の会計事務所に会計処理及び監査を委託している。
- ④ホームページにて公開している。

2. 課題

- A) ①の項目について
定員充足率が十分ではなかった。

3. 今後の改善方策

- A) 定員充足率を上げ、十分な財源を確保する。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
④自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①関連する法令を遵守している。
- ②教職員の情報はもとより学生の個人情報については細心の注意を払っている。
- ③実施された評価を受け、随時改善を行っている。
- ④公開を行っている。

2. 課題

- ・特になし

3. 今後の改善方策

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①学科毎の特性を活かした地域貢献が出来ていない。
- ②外部のボランティア募集についてチラシの掲示や呼びかけを行い、学生に参加を促している。
- ③教育訓練、学びフェスタ、中高生への特別授業などを開講し、訓練や学びの機会を提供している。

2. 課題

- A) ①の項目について
十分に社会貢献しているとは言えない。
- B) ②の項目について
ボランティア活動に参加する意欲を引き出す取り組みが不十分である。

3. 今後の改善方策

- A) 積極的に社会や地域に貢献できる取り組みを行う。
- B) ボランティア活動の趣旨を理解させ、積極的に参加するよう指導をしていく。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①留学生の受入れについて戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
④学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①全学科において留学生を受け入れている。
- ②入国管理局の告示基準に従って、必要な報告と届出を行っている。
- ③英語が話せるスタッフを配置し、適宜指導を行っている。
- ④ホームページ、SNS等を通じて教育活動や学修成果を伝えている。

2. 課題

- A) ①の項目について
具体的な戦略が策定されていない。
- B) ④の項目について
Facebookでの発信がまだ十分とは言えない。

3. 今後の改善方策

- A) 留学生を受け入れる学校としての進むべき方向性と目標達成までのシナリオをより具体的にする。
- B) Facebookでの情報発信の頻度を増やす。

VI. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

専門学校ファースト学園金沢校では自己点検・自己評価を、令和2年度より本格的に実施している。

評価項目については、「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて実施している。

自己点検・自己評価の結果について学校外の関係者による評価を受けるため「学校関係者評価委員会」を組織し、委員会での評価・提言を学校運営の改善に繋げている。

評価項目では、「4. 適切」、「3. ほぼ適切」との評価としており、教育目標達成に向けた教育活動に取り組んでいると考える。

しかし、昨今の変化の激しい社会を考えると、社会に必要とされる人材を常に輩出し社会貢献していくためには、常に改善を繰り返す取り組みを継続する必要があると考える。

今後は年度毎に設定している「重点目標の取り組み」を着実に継続していくと共に、評価結果を学校運営などの改善に活用していく。